

<<OREVF_A>>
 患者氏名：
 <<ORIBP_KANJI>>
 様
 病名：
 症状：
 <<DYTODAY>>

月 日		/	#VALUE!	#VALUE!		#VALUE!	#VALUE!	#VALUE!	#VALUE!
経 過		入院	手術前日	手術当日（術前）	手術当日（術後）	術後1日目	術後2日目	術後3日目	術後4日目
達成目標		心身ともに安定した状態である	→	発熱がなく手術を受けることができる	- 術後の異常な出血がない - 血圧が安定する - 痛みがコントロールできている - 安静が守れている - ドレーンの固定ができている	- 血圧が安定する 38.5℃以上の発熱がない - 痛みがコントロールできている - お腹の管の挿入部に赤みがない - ドレーンの固定ができている - 立つことができる	- 尿の管を抜くことができる - トイレまで歩くことができる	腸の動きが回復し排ガスがある	→
治療計画	点滴				24時間点滴を続けます	→	→	→	点滴の内容が、変更になる場合があります
	内服	持参薬を確認します 	15時と21時に下剤を内服します - 眠るための薬を飲むことができます					持参薬の心臓や高血圧の薬を状態に応じて再開します 	胃薬の内服が始まります
処置			臍の掃除をします	- 排便がなければ、浣腸を行います - ストッキングをはきます	- 背中に痛み止めのチューブが入っています - お腹に管が入っています - 酸素マスクをつけます	- 体重を退院まで毎日測ります - 傷の観察をします 	→	→	→
					酸素マスクをはずします	- 背中のチューブより痛み止めを続けます - トイレまで歩くことができれば、ストッキングを脱ぎます			
検 査		必要に応じて採血があります 			心電図モニターを装着します	採血・レントゲン		採血 	
活動安静度 リハビリ		制限はありません	→		- ベット上安静です - 寝返りができます	- ベットに座る練習から始めます - 立つ、歩く練習を始めます - 積極的に手足を動かしましょう	調子がよければ頑張って歩きます	→	→
食 事		通常の食事です	- 夕食まで食べることができます - 水は術当日朝まで飲むことができます	- 食事は出来ません - 飲水は6時まで可（手術時間により異なる場合があります）	- 目が覚めたら、うがいができます - 飲んだり、食べることは出来ません	- 朝から水が飲めます - 食べることは出来ません	朝から栄養剤の飲み物があります	昼から消化のよいやわらかい食事が始まります	→
清 潔			臍の掃除の後にシャワー浴をします			- 体を拭いて着替えをします - 食べていなくても歯磨きをしましょう		お腹の管が抜けるまでは体を拭きます	→
排 泄		制限はありません	→ 		尿の管が入っています	→	- トイレまで歩くことが出来たら尿の管を抜きます - 管が抜けたら尿量を測ります	→	→
教 育 指 導 説 明		- 医師から手術の説明があります - 看護師が入院生活について説明します	- 麻酔科医師と手術室看護師の訪問があります - 手術の必要物品を確認します	- ヘアピンや指輪ははずして下さい - 貴重品はご家族に預けて下さい	手術後、痛みや気分不良がある時は看護師にお知らせ下さい	痛みの程度に応じ痛み止めを使用します	尿の管を抜いた後、尿が出ない時はお知らせ下さい	お腹のガーゼが汚れたらお知らせ下さい	
特別な栄養管理の必要性		☐ 有 栄養状態に合わせた栄養管理を行います ☐ 無							

地方独立行政法人 佐賀県医療センター好生館
 肝胆脾外科
 主治医：
 <<ORDCT_S_A>>
 ⑩
 担当医：
 <<ORDCT_T_A>>
 看護師：
 <<ORDCT_N_A>>
 ⑩

上記について説明を受けました。
 平成
 年
 月
 日

患者氏名：
 ⑩
 （印鑑がない場合は自署）
 親族氏名：
 ⑩
 （患者本人が未成年または親族の同意が必要な場合に記入）

患者氏名： <<ORIBP_KANJ>> 様

月 日		#VALUE! ~ #VALUE!	#VALUE!	#VALUE! ~ #VALUE!	#VALUE! ~ #VALUE!	#VALUE!
経 過		5～6日目	7日目	8～21日目	22～27日目	術後28日目（退院）
達 成 目 標		- 傷に発赤や腫れがない 38.5℃以上の発熱がない - 痛みがコントロールできている - お腹の管の挿入部に赤みがない - ドレーンの固定ができている	→	→	→	- 傷の感染がない - 退院後の生活の注意点を知っている
治 療 計 画	点 滴	点滴を続ける場合があります				
	内 服	内服を続けます				退院時処方をお渡しします 
処 置		- 体重を退院まで毎日測ります - 傷の観察をします 	→	→	→	→
		背中チューブは痛みの様子をみて抜きます	傷の糸をはずします	お腹の管は、状態をみながら抜いていきます	→	外来受診時に傷の状態を観察します
検 査			採血 			
活 動 安静度 リハビリ		調子がよければ、頑張って歩きます	→	→	→	- 日常生活での制限はありません - 積極的に体を動かしましょう
食 事		消化のよい食事です	→	→	→	- 食事制限は特にありませんが、1回の食事量を抑え間食などで補いましょう - 食後はすぐ横にならず、軽く動きましょう - 刺激の強い食品は避けましょう - アルコールは医師の許可を受けて下さい - 暴飲・暴食は避けましょう - 消化のよい食品を食べましょう
清 潔		- お腹の管が抜けるまでは、体を拭きます - 髪を洗います 下半身のシャワー浴ができます 	→	→	→	
排 泄		排便がなければ看護婦にお知らせ下さい	→	→	→	
教 育 指 導 説 明				栄養士から指導があります		- 状態によって退院できます - 退院時次回外来受診の予約票をお渡します - 腹痛・便秘・発熱など症状が持続する場合は受診しましょう - その他、退院後の生活に心配がある方は相談して下さい
特別な栄養管理の 必要性						

注1) 病名等は、現時点で考えられるものであり、今後検査等を進めて行くにしたがって、変わり得るものです。
注2) 入院期間については、現時点で予想されるものです。

2014年9月作成